

平成 28 年 1 月 29 日

研究公開用文書

| |
|--|
| 研究名： 内視鏡治療施行例における臨床病理学的検討 |
| 研究の概要： それまで消化管腫瘍性病変に対する治療はその機器や方法の問題から大きさなどに制約が大きく、比較的小さい早期癌であったとしても手術を選択せざるを得なかったものが、内視鏡的粘膜下層剥離術（以下 ESD）が登場し本邦において 2006 年早期胃癌に、2008 年食道癌、2012 年には大腸腫瘍に対して各々保険収載されたことにより、消化管領域における癌診療は大きく変容を遂げた。現在では専門施設のみならず多くの施設で ESD が施行されるようになっており、内視鏡機器の向上や内視鏡医の意識の変革もあり、微小病変を含め ESD の件数そのものも増加の一途をたどっている。しかし一方で依然として大腸や食道を中心に専門性が高く、高度な技術が要求される症例も数多く存在する。専門施設での治療経験やデータを集計し、その成績や臨床病理学的特徴を中心に後ろ向きに解析を行うことは自施設の現状を客観的に把握することになり、他施設との差異を明確にし得ることのみならず、その後の内視鏡診断・治療における改善点の発見やデバイスの開発、診断・治療能の向上に寄与すると考える。 |
| 研究対象： 横浜市立大学附属病院において消化管（食道、胃、十二指腸、大腸）の内視鏡治療を受けたことがある全患者 |
| 研究責任者： 横浜市立大学附属病院 所属： 消化器内科 氏名： 金子 裕明 |
| 研究実施期間： 2016 年 3 月許可日から 2021 年 2 月 28 日 |
| 連絡先： 横浜市立大学附属病院 所属：消化器内科 氏名： 金子 裕明 〒：236-0004 住所：横浜市金沢区福浦 3-9 電話：045-787-2800 |